

# 新築大作戦

②

私の研究室にはさまざまな相談の電話が掛かってきます。最も多いのは高断熱・高气密住宅を工務店の方に勧められ家を建てましたが、思ったほど快適でないという質問です。最近ではシックハウスに関する問い合わせが多くなっています。

## 住まいの役割

住まいの役割は、室内に安全で快適、健康な環境をつくることです。この意味で研究者の間では住宅の外部と室内を分ける部分（壁、床、屋根、窓など）をシェルターと呼んでいます。デザインが素晴らしくても、室内の環境が危険で不快で不健康であれば、その住宅

は本来の役割を果たしていません。建築家が設計した家は住みにくいといわれていても、これは建築家が自分の宣伝のために奇抜な部屋と暖房していない

の部屋と暖房していません。秋田県や岩手県の山間部で脳卒中などの病気が多いのは、塩分の取り過ぎと、住環境の悪さに問題があると指摘されています。この地域は北海道ほど寒くないため暖房設備が比較的貧弱です。室内に快適で健康な環境

# 安全、快適な環境に配慮

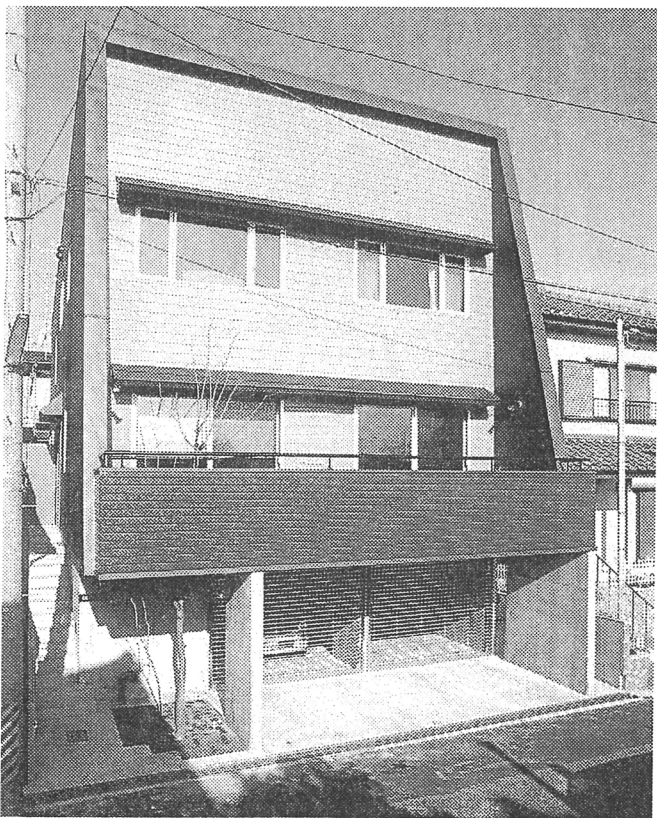
部屋の温度差によって生じる生理的ショック）を受けて発作を起こす場合があります。このような住宅は健康で不快な住宅といえるでしょう。

このためには、住宅の性能（断熱性能、気密性能）を高める必要があります。日本の住宅は築後十五年で半数が取り壊

れられています。一方、アメリカの住宅では五十年、ヨーロッパでは九十年と長い期間使用されています。この違いは生活様式や社会制度の違いによるものもありますが、環境問題の観点からは良く住み続けることができれば、家を建てることも地球環境の観点から重要な要素であると考えられます。

（赤林伸一・新大自然科学研究科助教授）

一方、地球温暖化などの環境問題が議論されており、住宅でもリサイクルや省エネルギーといった問題が生じています。住宅は、耐久性が高く、



住まいは外観だけでなく、室内の環境が安全で快適かどうか重要なポイント